

【コース】 人体の構造と機能 2

【コースディレクター】

CD : 三輪 尚史(生理学)

CD 補佐 : 森 茂久(医学教育センター) 仲村 秀俊(呼吸器内科) 岡田 浩一(腎臓内科)

【コースの概要】

人体の構造と機能 2 コースは、下記の 7 ユニットで構成される。

1 年次で履修した人体の構造と機能 1 および細胞生物学を十分に理解した上で本コースを学習することが重要です。本コースを学習しつつ病態生理の理解を深め、病気の基礎コース、3 年次から始まるヒトの病気コースの土台を築いて下さい。また、臨床推論ユニットでの病態生理の推論と本コースの内容は一体のものであることも前提として下さい。「すべての臓器・系が統合されたものが人体」という認識を、エネルギー系、調節系、情報系の相互のつながりを通じて理解して下さい。

1. エネルギー系
2. 調節系
3. 情報系
4. 構造系実習
5. 物質系実習
6. 機能系実習 1
7. 機能系実習 2

【目 標】

臨床医学を学ぶ基盤を作るために、人体の各器官系の構造と機能および遺伝に関する基本的な知識を、エネルギー系、調節系、情報系の 3 つのまとまりとして修得する。それぞれの知識を体験として確認し、実験科学的態度を身につけるために、実習に積極的に参加する。

【学習方法】

講義と実習、演習により行う。

学習に当たっては、既に学習した内容との関連をよく理解しつつ、学習項目を正確に理解して覚えることが大事で、コースが終了する時点では、すべてのユニットの内容がしっかりと記憶され理解されているのみならず、症状・症候および病態生理の観点からも統合されていなければなりません。

参考書をできるだけ多く読むことは大切であり、自ら読み進んで、どんどん質問して下さい。また、「身体診察と基本手技」および「臨床推論-EBM と病態生理から症例を考える」は常に参照して下さい。

形成的評価として実施する課題については、当該授業（教材）中で解答と解説を提示する。

【評価方法】

1. 各ユニット（機能系および物質系実習ユニットを除く）終了後、定期試験を行います。定期試験は 100 点満点（MCQ 50 点、記述式問題 25 点、口頭試問 25 点）とします。原則としてこの配点としますが、ユニット内で行われる実習・演習等の評価の配点はユニット毎に UD が決定します。

2. 再試験は、MCQ 50 点、記述式問題 50 点で合計 100 点満点とします。
3. 授業、実習中の態度、レポート提出の期限遵守、等も評価の対象になります。

【指定教科書】

- ◆ 日本人体解剖学（上、下）、第 20 版（2020）、南山堂
- ◆ ギャノン生理学、原書第 26 版(2022)、丸善
- ◆ リッピンコットシリーズ イラストレイテッド生化学、原書 7 版（2018）、丸善

【参 考 書】

- ◆ 標準生理学第 9 版、医学書院
- ◆ イラストレイテッド ハーパー・生化学、原書 30 版、丸善
- ◆ ストライヤー生化学 第 8 版、東京化学同人
- ◆ 遺伝医学への招待 第 6 版、南江堂
- ◆ エッセンシャル細胞生物学 原書 4 版、南江堂

【コース】

人体の構造と機能 2

【コースディレクター】

三輪 尚史 (生理学)

【コンピテンス】

2. 基盤となる医学知識と問題対応能力

【マイルストーン】

2-(1). 人体の正常構造と機能について、知識を統合し応用することができる。

2-(2). 生体の細胞学的、生理学的、生化学的、分子生物学的メカニズムや個体の反応について概説できる。

【評価方法】

2-(1). 各ユニットの筆記試験および口頭試問（コースとして判定する）

個別の知識の正確さを MCQ により広い範囲にわたって問う。

知識間の連関につき階層的な領域をまたがって説明できるかに注目し、記述試験により問う。

また以上の 2 項目について口頭試問により学生ごとに個別に確認、評価する。

2-(2). 各ユニットの筆記試験および口頭試問、実習課題に関する発表と提出物

（コースとして判定する）

2-(1)と同様に知識と背景について定期試験での試問を行うとともに、実習ユニットにおいては実技を通じ、データ取得と解析、発表までの過程を評価する。それらをまとめたレポート提出を求め、内容を個別にチェックする。

【補習および再評価の方法】

2-(1). 各ユニットの再試験、学生が呼びかけに応じた場合の任意の補習。

2-(2). 各ユニットの再試験、レポートの個別再提出。